



満開の舞台桜と旧麻績学校校舎



花弁数がまばらな桜は  
全国でもここだけ

#### 麻績の里 舞台桜

樹種:エドヒガン  
高さ:12m  
周囲:4m  
開花期:3月下旬~4月上旬  
花径:直径2~2.5cm  
花弁枚数:6枚・33% 7枚・25%  
8枚・17% 5枚・15%  
9枚・9% 10枚・1%  
(ただし年により変動あり)

「舞台桜」の名で知られる旧麻績学校校舎脇のエドヒガン桜が、後世に保存すべき文化財として飯田市天然記念物に指定されました。

舞台桜は枝変わりの枝垂れ桜。一般に花弁が八重の枝垂れ桜にあって、5枚から10枚と花弁数が一定しておらず、全国でもここだけに見られる固有種とされています。

座光寺地域では「麻績の里振興委員会」を中心に、地域の人々の手で桜の保護と周景整備に努めてきました。今回の指定は、舞台桜が地域を越えた共有の宝物になったことを意味します。舞台桜を通して多くの方々に、座光寺地域のすばらしさの一端にふれていただきたいと思います。

麻績の里座光寺便 桜花号 平成23年4月発行 ■ 麻績の里ふるさと応援俱楽部(飯田市役所座光寺自治振興センター内) 長野県飯田市座光寺25535 TEL 0265-22-1401

#### ふるさとパック 春

#### 春の特別山菜便 2,000円(送料別)

「ふるさとパック」は旬の座光寺農産物の詰め合わせ。ふるさとを離れて暮らす方に、自然の香りや懐かしい味をお届けしています。一度ご家庭でご利用ください。

- お申し込み先 麻績の里ふるさと応援俱楽部 (TEL.0265-22-1401)
- お申し込み締切 平成23年4月28日
- お届け時期 平成23年5月上旬



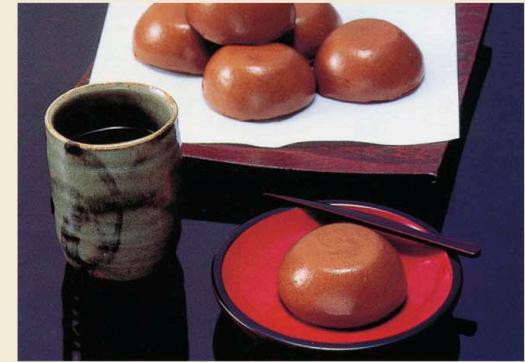
座光寺で採れる山菜の詰め合わせです。「何が」「どれくらい」入っているかは、天候と私たちのがんばりと運しだい。どうぞお楽しみに。



昨年のふるさとパック

#### 麻績の里・座光寺便 紹介します

これぞ座光寺土産の定番 黒いこし餡を褐色のころもが優しく包んだおまんじゅう。百有余年前、元善光寺に釣鐘が奉納された折、尼僧が「釣鐘饅頭」の名でつくったという、由緒正しい来歴をもつ、座光寺を代表する名物をご紹介します。



#### 吉丸屋

#### 座光寺まんじゅう

「ふるさと」には自慢したい旨いものがあります。都会では味わえない懐かしい味は、百年前と原料も作り方も同じ。素朴だけど奥深いおいしさです。



#### 川本屋

#### 座光寺万十

昔ながらの味と伝統を守り、素材を吟味。一つひとつ丁寧に包み、心を込めてつくっています。餡には北海道小豆を、皮には沖縄黒糖を使い、しっとりと仕上げています。

代表:赤羽目文宏  
住所:飯田市座光寺3604  
電話:0265-23-8564  
FAX:0265-52-4408

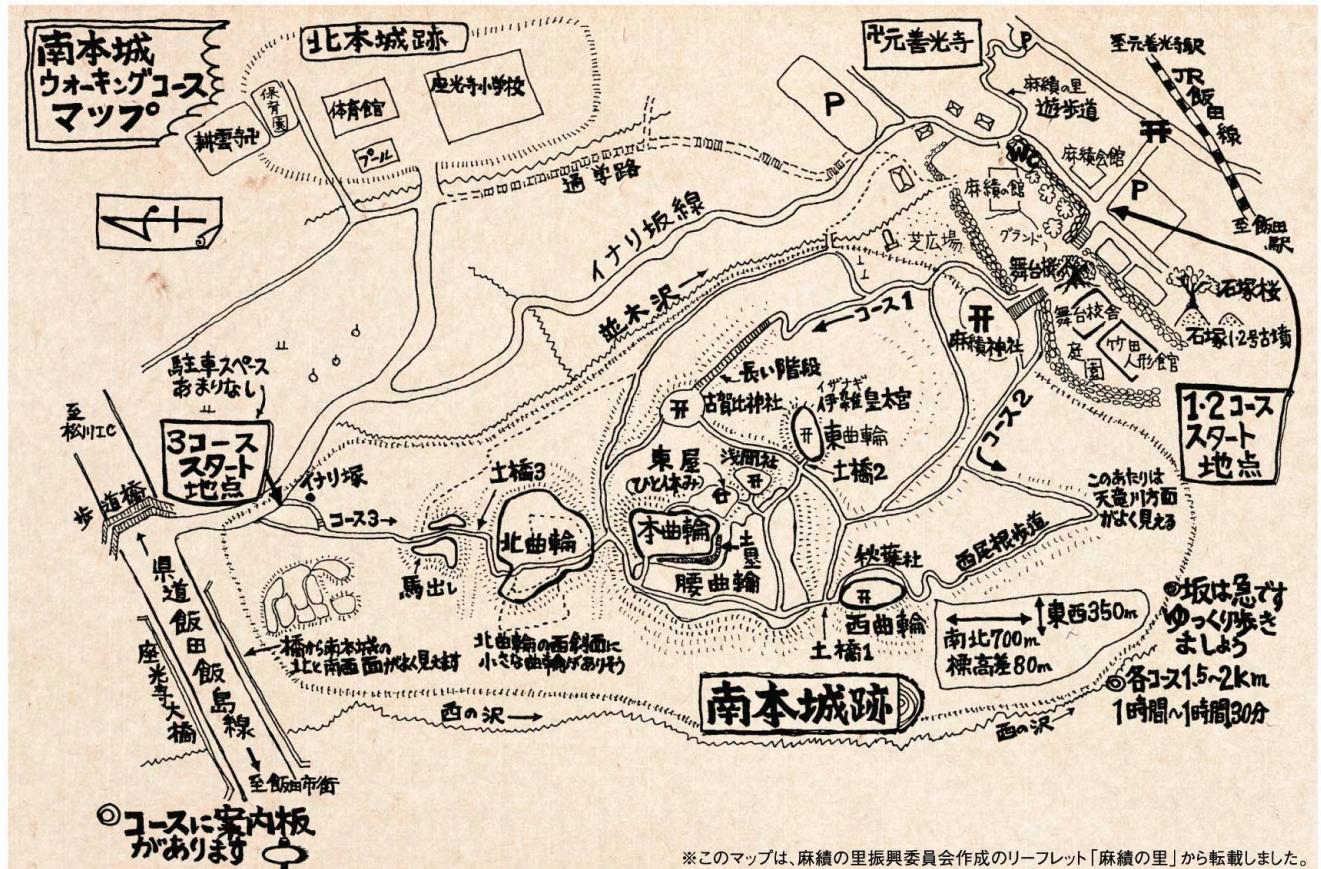
代表:三村晃弘  
住所:飯田市座光寺4715-1  
電話:0265-53-0030  
FAX:0265-53-0030

# 南本城を歩こう

みなみほんじょう

「本城山」と呼ばれています。「」には「北本城」「南本城」という二つの大規模な城跡があります。北本城には座光寺小学校や保育園が建っていますが、南本城は尾根全体に多くの城郭遺構が昔のまま残る、長野県内有数の城跡です。遊歩道も整備されており、気軽に史跡散策が楽しめます。

南本城ができた年代については諸説あります。ひとつは戦国時代末期の天正10年(1582)に、織田信長の信濃侵攻に備えた城とする説。また、徳川家康の下で豊臣政権に対抗して築城したものとする考え方などですが、どれも裏付けとなる史料がありません。謎につつまれた城なのです。



※このマップは、麻績の里振興委員会作成のリーフレット「麻績の里」から転載しました。

## コース1 古賀比神社コース

麻績神社 ⇒ 古賀比神社 ⇒ 北曲輪 ⇒ イナリ塚 ⇒ 北曲輪 ⇒ 本曲輪 ⇒ 東屋 ⇒ 土橋2 ⇒ 東曲輪 ⇒ 土橋2 ⇒ 腰曲輪南 ⇒ 土橋1 ⇒ 西曲輪 ⇒ 西尾根歩道 ⇒ 麻績神社

## コース2 西曲輪コース

麻績神社 ⇒ 西尾根歩道 ⇒ 西曲輪 ⇒ 土橋1 ⇒ 腰曲輪南 ⇒ 北曲輪 ⇒ イナリ塚 ⇒ 北曲輪 ⇒ 本曲輪 ⇒ 東屋 ⇒ 土橋2 ⇒ 東曲輪 ⇒ 古賀比神社 ⇒ 麻績神社

## コース3 イナリ塚コース

イナリ塚 ⇒ 北曲輪 ⇒ 本曲輪 ⇒ 東屋 ⇒ 土橋2 ⇒ 東曲輪 ⇒ 腰曲輪南 ⇒ 土橋1 ⇒ 西曲輪 ⇒ 西尾根歩道 ⇒ 麻績神社 ⇒ 古賀比神社 ⇒ イナリ塚



平成18年に設置されたあづま屋



城跡内の遊歩道



古賀比神社跡。碑と鬼瓦が残る



富士信仰の浅間神社碑

さて、この南本城(本城山)と地域との関わりはどのようなものだったのでしょうか。江戸時代の記録によれば、秋葉社、浅間(せんげん)社、御鍬社、豊川稻荷社などの小祠が祀られており、祭礼が行われていたことが記されています。明治期には薪や芝刈りの森として、地域に欠かせない場所でした。南本城の山道は「イナリ坂」と呼ばれ、地域の主要な道であったと考えられます。

座光寺地区住民でつくる「麻績の里振興委員会」では、遊歩道の整備やササユリの見学会などを通じて、城跡の環境維持と多くの人に親しんでいただくための啓発活動を取り組んでいます。



本曲輪。曲輪とは、周囲を土や石で囲った区画。右手の盛り上がった部分は、土を盛り上げて造った土壘



断続された区画をつなぐ土橋

國・岩村城で討ち死にし没落しています。天正10年の築城によるものか、または武田軍の手によるものと考えられます。居住的要素が強い北本城にとすれば、座光寺氏の残党に對し、南本城は段差をつけた小さな曲輪がいくつも構築されており、防御目的で築城されたと想像できます。防衛とたお城と考えられています。